

大阪市立難波中学校 令和元年度 校長経営戦略支援予算 【**基本配付**】実施報告書
(補足説明資料)

各取組内容についての評価

【取組内容（1）】

令和元年度末の生徒アンケート「人権や平和・いのちについて考え、それらを守っていくことの大切さを学んだ」の項目について、「よくあてはまる」、「ややあてはまる」と答える生徒の割合を、全体の85%以上にするという年度目標達成のために、1年生で平和学習として、ピースおおさかの見学を行い、班ごとの新聞作成へつなげた。一人ひとりが記事を書き、班ごとにまとめた壁新聞は出来が非常によかった。

アンケートの肯定的な回答が93.9%となり、取組の成果がしっかりと表れたと考える。

【取組内容（2）】

令和元年度末の生徒アンケート「集団や社会のルール、道徳マナーを守っていくことの大切さを学んだ」、「他者を思いやり、相手の立場になって考え、優しい心を持って行動できるように努めた」の両項目について、「よくあてはまる」、「ややあてはまる」と答える生徒の割合を、全体の85%以上にするという年度目標のために、2年生で大阪市内の博物館等の見学を兼ねた、地下鉄を利用しての班別自主活動を行った。自己中心的な活動となり、集団行動（班行動）が乱れてしまった面があり、完全に目的を果たすことができなかった。

生徒アンケートの肯定的な回答が前者は93.9%、後者が87.1%で、85%以上とはなったが、取組の成果が直接表れているとは言い難いと判断した。

【取組内容（3）】

3年間で系統的に行うキャリア教育を通して勤労観・職業観を養うとともに、自尊感情を高め、自己の将来について考えさせる、という年度目標達成のために、今年度は和太鼓演奏の芸術鑑賞会を実施し、和太鼓演者の歩んできた自らの人生の講演会も併せて実施した。また、1年生でも大相撲親方の職業講話を実施した。

「夢」を実現された方の講話は非常に魅力的で、どの生徒もしっかりと聞き、講演後はどんなことにも挑戦しようとする姿勢が身についている、と感じた。そのため、目標を達成できたと判断した。

【取組内容（4）】

「得点低位層に対する補充学習を行い、基礎・基本の学習の徹底を図る。」「各学年で家庭学習に向けた取り組みを推進し、学習習慣を定着させる。」ための1つの取組として日本漢字能力検定を受験した。事前に練習問題等で適正級を決定し、受験に向けて問題集を手渡し、宿題を課すなどの取組を行い、約60%の生徒が合格を果たした。

放課後に漢字練習に熱心に取り組んだ生徒もいた。何よりも努力したことが「合格」という1つも形となって表れ、「自信」「自尊感情の高まり」につながったことが大きかった。取組の成果がしっかりと表れた。

【取組内容（5）】

「他国の文化にふれることで、自らのアイデンティティを自覚し、多文化共生社会の中で生きていける生徒を育成する。また、さまざまな考え方を受け入れる集団づくりをすすめる。」ための1つの取組として、2年生で日本に来ている留学生の方に自国のこと話をいただき、日本との違い（言葉、食事、文化など）を紹介する取組を実施する予定であった。しかし、新型コロナウイルス関連による学校の臨時休業日前日（2／28）と重なり、急遽、取組を実施しないこととした。

イランやエジプトなどの方との交流ということで、普段接することのない国のことを探る貴重な機会だったので、非常に残念だった。今回は実施できなかつたということで、成果は全く得られなかつたと判断した。ただ、本校は外国籍、外国にルーツのある生徒が多く在籍し、子どもたちの中で「違い」を受け入れる気持ちが整っている。それをさらに大きく、広くしていけるよう、普段の学校生活の中で大切にしていきたい。

【取組内容（6）】

「他国の文化にふれることで、自らのアイデンティティを自覚し、多文化共生社会の中で生きていける生徒を育成する。また、さまざまな考え方を受け入れる集団づくりをすすめる。」ための1つの取組として、国際クラブの取組を全校に広げるための交流会を実施できた。

本校は、さまざまな国にルーツをもつ生徒がたくさんおり、それぞれが自分の出身について考え、また、まわりの人々のことを知る貴重な機会となつたと判断した。

【取組内容（7）】

「学校全体や各学年等での実施計画に基づき、体育関連の学校行事の充実を図る。」ための1つの取組みとして、1年生でアイススケートの体験学習を実施した。冬のスポーツの体験を行うことと区内の立派な施設の利用を兼ねて実施することができた。

初めてスケートを滑る生徒もいて、普段授業でも行うことができないことを体験する貴重な時間となつた。そのため、取組の成果が大変高かったと判断した

【取組内容（8）】

「中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より4ポイント減少させる。」という年度目標を達成するために、学びサポーターに授業中の支援や放課後の個別学習会に参加してもらうことを考えていたが、学びサポーターに応募する方が誰もいないという結果になつた。

そこで、「学校全体でのユニバーサルデザインの授業やICT機器の活用により、生徒の学習理解の充実を図る。」「放課後、テスト前、長期休業中の学習会を行う。」取組指標を達成するために、授業で使うICT機器の整備、学習会を行う図書室の人数確保も兼ねた傾斜書架の購入、学習会用のPPC用紙の購入に充てた。ICT機器の整備は、授業でタブレット等を使うことが増えることにつながり、傾斜書架の購入は、学習会の参加人数の増加、それに伴うPPC用紙の使用量増につながつた。

学びサポーターの活用には至らなかつたが、子どもたちの学びにつながる諸経費に活用したので、少し成果があつたのではないかと判断した。

総評

① 年度目標の達成状況、総評

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】においては、全市共通目標、学校園の年度目標ともにほぼ達成し、子どもたち一人ひとりが有意義に学校生活を送ることができるような校内体制を確立することができた。ただ、不登校などの長欠生徒や人間関係のつながりにくさから教室に入れない生徒がいる現状は続いており、生徒・保護者の想いを受け止めながら、個に応じた支援を全体で考えていかなければならぬことが急務となっている。また、少なからずSNSを介したトラブルが発生しており、携帯電話・スマートフォンの取扱い方を啓発していくことも重要である。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】において、学力面では全市共通目標、学校園の年度目標ともに達成できなかった項目が多く、厳しい結果となった。さまざまな方策で学力向上をめざしたが、基礎学力の定着、家庭学習の習慣がなかなか身につかなかった。学習する目的意識や自分の現在の状態を把握できる取組みなど、生徒の意識変革を行う必要性も感じてきている。また、保護者と連携しながら、「提出物を出す」ことを習慣化するところから取組みを進めていかなければいけない。ただ、補充学習会や放課後自主学習会などの個に応じた取り組みは、生徒一人ひとりにとって効果が高いので、今後も継続して行っていく。今年度は、ICT機器の活用に着目して授業の見直しを行った。多くの先生方がICT機器を使う中で感じたことを来年度さらにいかしていくよう、意見集約・情報伝達に努めていく。

体力面では、春と秋に新体力テストを2回実施しているが、ほとんどの項目で秋の結果が春の結果より向上している。これを自信にし、運動することの苦手意識を払しょくしていきたい。また、3年間の結果が載っているシートを作成するなど、運動することの意識づけを行っていく。ただ、能力の高い生徒と低い生徒の二極化は相変わらず顕著に表れており、運動部活動に入部しているか、していないかとほぼ同じ結果となっている。学校生活の中で継続して運動する機会を増やす取組みを考えていきたい。

安心・安全な学校づくり、学力・体力面の向上のどちらにおいても、家庭や地域との連携のもと、基本的な生活習慣の確立が土台としてなければならないと考える。生徒への指導はもちろん、保護者への啓発をどのようにして行うべきかが最大の課題となっている。「早寝・早起き・朝ごはん」の実行や携帯電話・スマートフォンの使用時間の制限など、家庭内でのルールの策定を生徒・保護者と一緒に考える時間を増やしていければ、と考える。また、私たち教職員がさまざまな視点から子どもたちに自信がつくような声かけを行い、よりよく生きようとする意欲向上につなげていくことも重要な行動のひとつだと考えるので、子どもたちのようすをしっかりと見守っていきたい。

② 学校協議会における意見

不登校などの長欠生徒や人間関係のつながりにくさから教室に入れない生徒がいる現状分析をしっかりと行い、来年度はそのような生徒を減らすことができるよう、学校としての取組みを明確にしてほしい。また、地域として協力できることがあれば、協力していきたい。

学力面では、学力低位層の割合が大きいことが気になる。丁寧な学習指導、個別指

導が必要だが、教職員の人数も限られているので、やり方・方法を工夫するなど、さまざまな模索をしてほしい。

スマートフォンの使い方（SNS・ゲーム）が気になる。夜遅くまで使い、授業はもとより、学校生活にまで影響が出ている生徒が数名いると聞く。家庭との連携でうまくいかない場合は、地域も巻き込んで、子どもたちの健全育成に努めていきたい。